

死蟬をときをり落し蟬しぐれ

藤田湘子

平成九年、鷹十月号に発表の一句である。

この号の編集室、湘子後記の一部を引用紹介する。

「本号は通巻四百号である。創刊以来三十三年四ヶ月。特集を組んで自祝すべきところだが、第二次鷹が発足してまだ一年半経ったばかりだから、明後年の三十五周年まで待ちたい。」

俳句の主宰誌を持ち、投句や依頼原稿を集め、選句、選評、編集、校正、印刷、発送と、毎月休まず遅れず発行する苦勞はいかばかりか。されど、雑誌の通巻号数まで気に留めるのは、主宰や編集者だけかも知れない。

「死蟬を」の一句には、亡くなった仲間への哀悼と残された自分たちの俳句精神の堅持まで感じられる。

1997年（H9作）第十句集『神楽』 鑑賞・轍郁摩